



確かな技術を礎に 持続可能な水環境を 未来の子どもたちへ

創業 50 周年 さらなる飛躍を目指して

私たちは長野県を中心に、豊かな水環境を創造する水処理エンジニアリング企業です。創業以来「ふるさとの水を守る」を合い言葉に事業を展開。下水道や浄化槽の設計、施工に加え、メンテナンスまで一貫して取り組み、確かな実績と評価を集めてきました。海のない長野県だからこそ、清らかな水を守り、持続可能な水環境を子どもたちへ受け継ぐことは私たちの使命であると考えています。

創業50年の節目を迎え、2023年8月には「第一公害プラント株式会社」から「ダイネックス株式会社」へと社名を改め、同時に本社・飯田支店も移転新築して新たなスタートを切りました。

水の持つ無限の可能性を信じ、次なるステージへ。循環型社会の実現に貢献すべく新たな挑戦も続けながら、さらなる飛躍を目指します。

ダイネックス株式会社

TSR 企業コード：42-003452-8

代表取締役

山下 大輔

Profile

やました だいすけ

1967年8月23日、飯田市生まれ。法政大学商学部を卒業後、1992年に第一公害プラント株式会社へ入社。長野、松本での現場経験を経て、1997年飯田市へ帰郷し、2001年丸西産業株式会社の社長に就任。2008年第一公害プラント株式会社の代表取締役社長に就任する。職種の異なる二つの事業に気持ちを切り替えながら臨む意を込め、座右の名は「坐忘」。趣味はゴルフ。

水環境を守りつつ 好循環を起こす企業へ

すべての生命の源であり、私たちの暮らしを支えるかけがえのない「水」。海の水は蒸発して雲になり、雨や雪として地上へ降り注ぎ、草木を潤したあと川や海へと還ります。このように絶えず循環している水の一部を私たちは利用し、生活や経済活動を営んでいます。これらの水を浄化し、自然へと還す役割を担うのが私たちの仕事です。

1969年、農産物の流通を行う「丸西産業株式会社」の事業部の一つとして業務をスタート。1972年には「第一公害プラント株式会社」として独立を果たしました。現在は長野県内6カ所、新潟県、東京都、埼玉県、そしてタイにも支店・営業所を構え、広くニーズにお応えしています。私たちが手がける仕事は、公共施設をはじめ、工場や商業施設などが中心。社会に欠かせない事業だからこそ景気に左右されにくく、今後も安定した需要が見込まれます。

50年間の歴史を胸に、100年企業への道を歩み始めた私たちが新た

に掲げた理念。それが「好循環に挑戦」です。水の持つ可能性を信じ「循環を守る企業」から「好循環を起こす企業」へ。私たち自身が渦の中心となり、関わる方々へプラスの影響を与える存在となれるようチャレンジを続けます。

最新のテクノロジーで 地球環境にも貢献

世界は今、さまざまな環境問題に直面しています。地球環境に配慮し、資源を持続的に利用する循環型社会を推進することは、自然と共生し、事業活動を行う私たちのミッションです。創業当時から携わってきた水処理事業の発想を展開し、最新のテクノロジーを追求。排水における熱利用プラントや、メタン発酵システムを利用したバイオガス発電機の導入など、水の持つ多面的な価値を発揮できるシステムを構築し、お客様のCSR、SDGsへの取り組みにも貢献すると同時に地球環境の保全にも貢献しています。

プロとして 活躍できる技術者に

下水道、浄化槽は生活する上で欠

かすことのできない社会インフラです。安全かつ快適な暮らしを守り続けるために、私たちが特に力を注いでいるのがメンテナンスです。細やかな点検はもちろん、万が一のことが起こった場合に、迅速かつ適切な対応を行うことができるよう技術の継承に努め、プロとして活躍できる多くの技術者を育てたいと考えています。

そうした意識のもと、積極的に新卒採用を続けてきた結果、現在は社内全体の約3割を20代の社員が占め、30代、40代の社員が役職者として活躍する活気のある社風も生まれています。また、自らを成長させたいと願う社員のスキルアップも全面的に応援。国家資格である下水道技術検定や各種施工監理技士の取得に挑戦する社員も多く、取得にかかる費用の補助や、ポイントによる報奨制度も設けるなど、そのチャレンジを支援しています。

長野県や自然が好きな方、環境に携わる仕事に魅力を感じる方も大歓迎! Uターン人材はもちろん、近年では県外からUターンで就職を志望する方も増えています。私たちと一緒に、水を起点とした新たな価値の創造にチャレンジしてみませんか。

ダイネックス株式会社 Q&A

Q 特徴的な福利厚生制度はありますか。

A ワークライフバランスの実現を考慮した有給休暇取得の促進をはじめ、人間ドックの受診制度やインフルエンザ予防接種の費用負担、毎週水曜NO残業デーなど社員が心身共に健康に働ける取り組みを積極的に進めています。

Q 入社前に専門的な知識は必要ですか。

A 専門的な知識はなくても大丈夫。新人研修をはじめ、ジョブローテーションで業務を通じて専門的な知識も幅広く身につけることができます。当社では文系、理系を問わず様々な学部、学科出身の社員が活躍しています。学んできたことが生かせるフィールドが必ずありますので安心してください。



企業データ

- 所在地 〒395-0004 飯田市上郷黒田2176
- TEL 0265-23-1122
- 設立 1972年11月
- 従業員数 125人
- 年商 32億1,921万円
- 事業所 【本社】飯田市
【支店】飯田市、長野市、松本市、東御市、富士見町
【営業所】伊那市、埼玉県川島町、新潟県上越市
- URL <https://www.dinex.co.jp/>

企業ホームページ

採用情報や求人に関するお問い合わせも
随時更新中



やりがいを胸に自身の成長も実感できる 恵まれた職場環境があります



大学で生物や化学を専攻しており「学んできた分野が生かせる仕事があれば」と考えていた時、就職サイトを通じて当社を知り、興味を持ちました。入社して最初の3年は東信支店のメンテナンス部で仕事を覚え、27歳で工務部へ異動して現場業務を担当。29歳の時に飯田支店への異動が決まり、2023年春から工務主任として現場管理の仕事を行っています。

浄化槽などの建設現場で施工の管理者として、材料、人員の手配や日々の作業指示、安全管理などを担うのが現場管理の仕事です。実際に建設現場へ出る前は、正直に言うと「怖い職人さんが多そう」「上下関係も厳しいんだろうな」と、マイナスのイメージを抱いていました。しかし、そのイメージは大きく変わりましたね。

確かに職人さんはそれぞれ個性豊かですが、理由なく怒ったり、怒鳴ったりする人は当然ありません。何か言われるとしたら自分に原因があり、それを正すためにきちんと「叱って」くれている。建設業界の人ほど「人をしっかり見られているな」と感じたとき、スッと肩の力が抜けました。皆で良いものを作るために心を合わせ、ゼロから形になった時の喜びは、やはり何にも代えがたいものがあります。ましてや、その施設が正しく稼働することで、水環境、ひいては地球環境の保全に役立っていると考えると大きなやりがいを感ずります。

この仕事をする上で、大切にしているのはお客様や職人さんとのコミュニケーションです。円滑に仕事を進めるうえで、皆で意識を共有することはとても大事だと気がつきました。社会人になり、自分自身が変わったなと感じるところは「感情が豊かになった」こと。笑う時は100パーセント大声で笑う、怒るときは怒るなど、素直に感情を出した方が相手にも伝わりますし、そちらの方が自分も楽だということに気がつきました。

当社の魅力は、排水処理に関して県内でトップクラスのシェアを持ち、周囲からも信頼を集める会社であること。「こんなことで困っているんだけど」と真っ先に頼りにしてくださいお客様も多く、働くことに誇りを感じます。

また「こんなに自由で良いのかな」と思ってしまうほど、風通しの良い雰囲気の中で気兼ねなく意見が言えます。それに対して先輩や上司が真摯に耳を傾け、正しいこと、間違っていることをきちんと返してくれるため、自身の成長も実感できます。30代を迎え、これからは本格的に後輩の指導をする立場になりますが、人に教えるためには



自分も学び続けなければいけません。資格取得の勉強にも励み、自身のスキルアップも図っていきたいです。

飯田支店に配属となり、その数カ月後に完成したのがこの新しい社屋です。室内全体に地中熱を利用した冷暖房システムが導入され、夏はほんのり涼しく、冬は陽だまりのようなあたたかさがあり快適に過ごすことができます。

2階のフリースペースは、ランチや休憩時はもちろん、仕事に集中したい時や打ち合わせなどにも使えるフレキシブルな空間。カフェのようなスタイリッシュな雰囲気でもちベーションも高まります。

飯田支店ではこのスペースを使って、任意参加の慰労会も月1回開かれています。この間は、みんなで「お好み焼きパーティー」をしました!異動した直後は不安もありましたが、あたたかな雰囲気ですぐに馴染むことができました。人間関係など余分なことに悩む必要がなく、恵まれた環境の中で仕事に集中し、存分に力を発揮することも当社の魅力です。



環境に配慮した ゼロエネルギー社屋

2023年に竣工した本社・飯田支店の新社屋は、ゼロエネルギーを目指した機能を備えています。太陽光発電と組み合わせた「トライブリット蓄電システム」「V2H電気自動車スタンド」の設置や、再生可能エネルギーである地中熱を利用し、快適な室内環境を実現する冷暖房システムも導入。この効率を高めるため、建物全体の断熱も強化し、木造軸組で鉄骨躯体のヒートブリッジ(熱橋)を防ぐなど建築構造による省エネ配慮も行っています。

また、常時500リットルの新鮮な水道水を貯水する装置や、排水を再生水(中水)として利用する水処理施設も完備。災害など万が一の際には、飲料水の供給や災害用トイレの提供など、地域の方々を支援する防災拠点としての機能も備えています。



ダイネックス株式会社

工務主任
宮沢 広視

1993年12月19日、安曇野市生まれ。信州大学農学部で生命機能科学について学び、2018年にダイネックス株式会社(旧第一公害プラント)へ入社。東信支店でのメンテナンス業務を経て、2022年11月に飯田支店へ異動となり、2023年4月から工務主任として活躍中。

